

露地夏秋どり栽培における生食向きナスの品種比較



神奈川県育成のナス‘サラダ紫’の収量及び果実特性を市販の生食向きナスと露地夏秋どり栽培で比較しました。

‘サラダ紫’は、供試品種の中で最も甘く多汁質で、株あたり上果収量が10.8kg/株得られ、供試した市販品種の中で最も多収であることがわかりました。

表1 比較法による生食での官能評価結果^z

品種	甘み ^y	えぐみ	柔らかさ	多汁性
サラダ紫	0.0	0.0	0.0	0.0
ごちそうナス	0.0	-0.1	0.2	-0.1
サラダ茄子	-1.0 **	0.4	0.0	-0.2
美男	-0.7	0.1	0.5	-0.5
さしみサラダ茄子	-0.7	0.2	0.3	-0.3
万寿満	-1.3 ***	0.3	-0.9	-1.7 ***
千両二号	-1.4 ***	0.3	-0.9	-1.2 **

z: 2015年9月14、15日に実施。‘サラダ紫’を基準(0)とし、-2(弱い)～2(強い)の平均値(n=12)

y: 同一列で**、***は‘サラダ紫’に対してそれぞれP<0.01、0.001水準で有意差あり (Dunnettの検定)

表2 収穫調査結果^z

品種	収穫果数 (個/株)	平均果重 ^y (g)	上果率 (重量%)	上果収量 (kg/株)
サラダ紫	132	129	63.4	10.8
ごちそうナス	172	81	68.8	9.5
サラダ茄子	100	142	64.9	9.3
美男	110	109	66.0	7.9
さしみサラダ茄子	126	109	64.2	8.8
万寿満	102	146	77.2	11.5
千両二号	135	107	76.2	11.0

z: 収穫調査は2015年6月24日から10月30日に実施。果実調査は2015年8月11日及び17日に収穫した果実を供試した。y: 果実は各種苗会社等が収穫適期とする重量の範囲で収穫した。